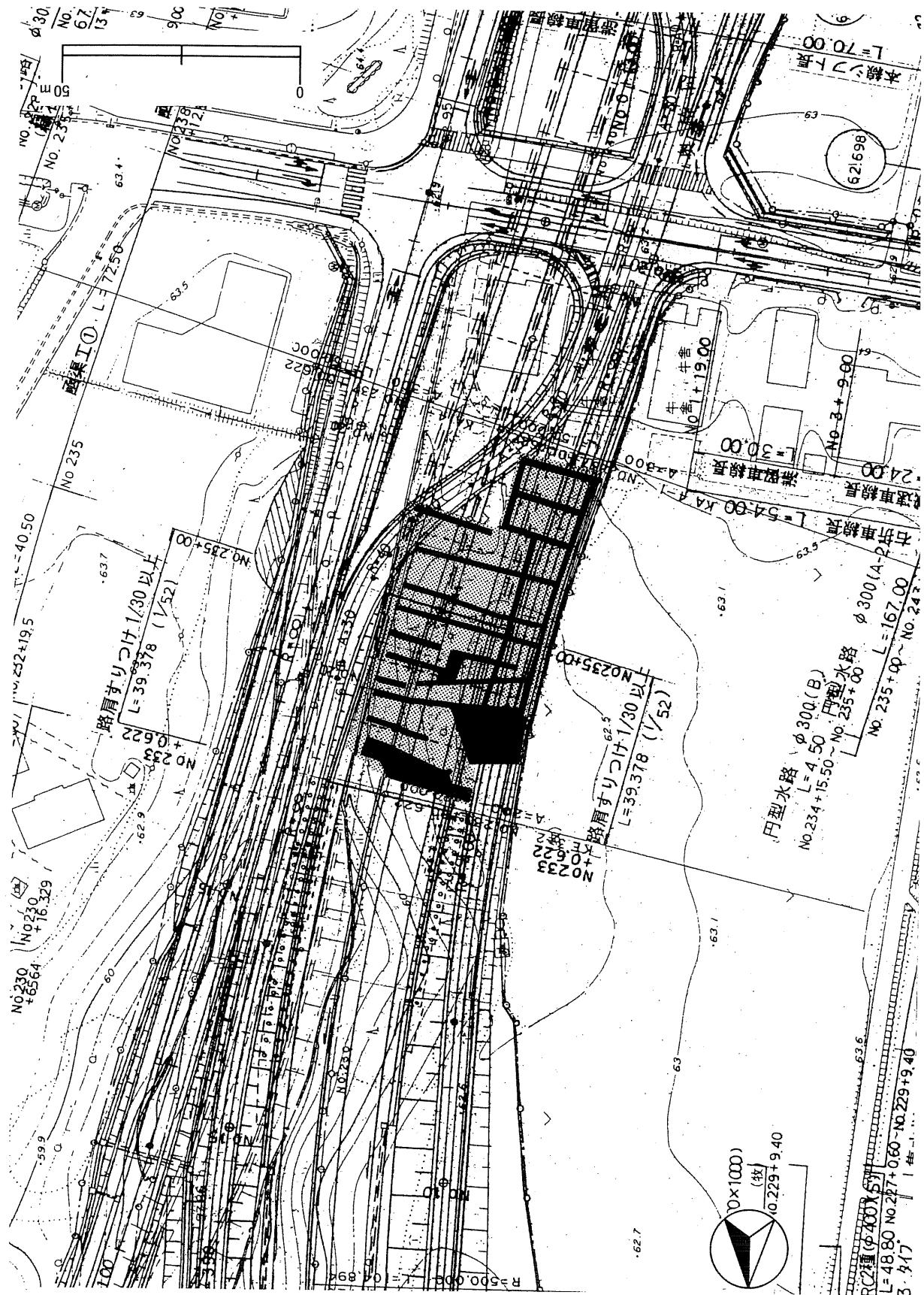


第87図 奥椿岱遺跡位置図

第 88 图 黑暗化道跡調查對象範圍之 A/B 位位置圖





奥椿岱遺跡
近景（北西から）



奥椿岱遺跡
トレンチ設定状況
(南西から)



奥椿岱遺跡
作業状況（南から）

(7) 芋川災害復旧等関連緊急事業

①大浦遺跡

- 1 遺跡所在地 秋田県本荘市大浦字八走 145
 2 範囲確認調査期間 平成 11 年 11 月 1 日～11 月 26 日
 3 範囲確認調査対象面積 20,000 m²
 4 工事区域内遺跡面積 12,000 m²
 5 遺跡の立地と環境
 a 立地

遺跡は、JR 羽後本荘駅から真北に約 1.75km、本荘市役所から北北東に約 2km の地点にあり、芋川右岸の段丘上に立地する。大内町方面から南下する芋川は、遺跡付近では左岸の独立丘陵にあたって大きく西に蛇行し、市道石脇大浦線の東側から再び子吉川に向かって南流する。遺跡は西流する芋川に沿って北側に広がる標高約 6～7m の平坦面にある。遺跡対岸の独立丘陵には、中世城館跡の川口館跡がある。また、遺跡から南に約 800m 下った芋川と子吉川の合流地点には、縄文時代早期の遺跡である菖蒲崎貝塚がある。

b 現況

現況は、水田跡地に柳、葦、すすきなどが茂った荒蕪地である。

この一帯は十数年前まで水田として耕作されていて、範囲確認調査対象地のほぼ中央には、東西方向に通る農道が残っている。現在、川岸に近い対象地南縁部は河川堤防として利用されている。また、対象地西側には大浦の八走集落が、北西側には建設中の新興住宅地である新山パークタウンが隣接する。

6 範囲確認調査の方法

調査は、地形や現在の土地利用状況等を考慮し、調査対象地のほぼ中央を東西方向に通る農道に平行して長いトレントを設け、これに直交する方向で、旧水田の畦畔に沿ったトレントと河川改修計画のセンター杭 (No.16, 17, 18) から北側の計画河川幅までを結ぶトレントを設定した。トレントの幅は 1.8m であるが、遺構・遺物の広がりを確認するために拡張して調査を行った部分もある。トレントは重機によって掘り下げ、部分的に深掘りを行った。調査対象地内は、どの場所を掘っても湧水が著しく、設定したトレントのほとんどが掘り下げ後すぐに水没してしまう状況であったが、遺構については可能な限り掘り込み面の把握に努め、位置と規模を記録した。遺物については出土位置と層位を記録した。

範囲確認調査対象面積 20,000 m²における延べ試掘面積は 2,507 m² であり、調査対象面積の 12.5% にあたる。

7 範囲確認調査の結果

a 層序

遺跡の基本層序は以下の通りである。

第 I 层 黒褐色土 (10YR2/2)	表土・水田耕作土 (層厚 5～20cm)
第 II 層 褐灰色土 (10YR4/1)	砂質土 (層厚 5～20cm)
第 III 層 黒褐色土 (10YR3/2)	砂粒を含む粘土 (層厚 10～20cm)

第IV層 にぶい黃橙色土 (10YR6/3) 粘土・地山 (層厚 20~40cm)

第V層 暗青灰色土 (5B4/1) 粘土

遺物が出土したのはⅡ層とⅢ層及びⅣ層上面である。I層の表土は、水田だった頃の耕作による搅乱を受けており、遺物は含まれていなかった。Ⅱ層の砂質土は遺物が含まれていたものの出土量は少ない。Ⅲ層およびⅣ層上面は、遺物が最も多く出土した層で、特にⅢ層とⅣ層の間から土師器、須恵器が出土した。遺構確認面はⅡ層、Ⅲ層及びⅣ層上面である。遺跡全体としては、調査対象地の東端部に向かうにつれて各層の厚さが増す傾向が見られる。

調査範囲外（調査対象地北側の外縁）にある農道に近い部分では、重機による削平を受けた痕跡がある。また、部分的に深掘りを行った結果、地山の下に暗青灰色粘土層があることが判明した。

b 検出遺構と出土遺物

調査対象地のほぼ中央を通る農道の西寄りで、一部隅丸方形プランを呈する竪穴住居跡1軒を検出した。この竪穴住居跡内部には、赤く焼けた石が残っており、その周囲も焼土粒や炭化物が集中していたことからカマドであると判断した。床面までの深さは約40cmである。竪穴住居跡から出土した遺物は土師器と須恵器で、土師器片が多い。

中央部では溝跡1条を検出した。この溝跡は南北方向に連続するものと考えられる。

東端部では16基の柱穴及び竪穴住居跡の可能性があるプランを検出した。隣接するトレンチからも柱穴10基と土坑1基を検出した。この区域は今回の調査範囲の中では最も遺構・遺物が集中していた区域である。

出土した遺物の総量は、中コンテナ4箱分である。土師器が最も多く、須恵器がこれに次ぐ。このほかでは、陶磁器4点、鉄製品（釘）が1点出土した。

8 所見

a 遺跡の種類

平安時代（9~10世紀代）の集落跡である。

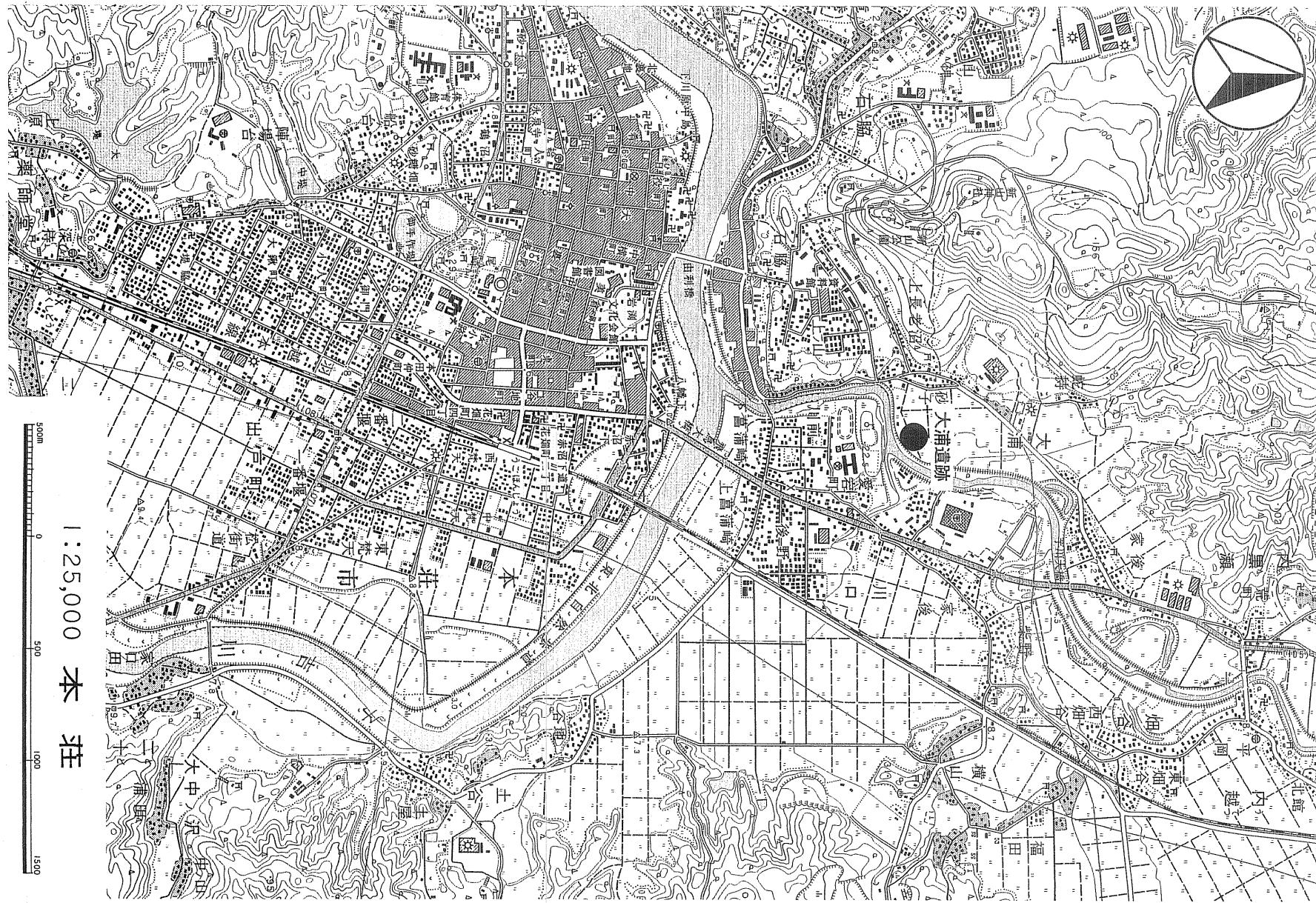
b 遺跡の範囲と工事区域

工事区域の中に遺跡全体が含まれる。

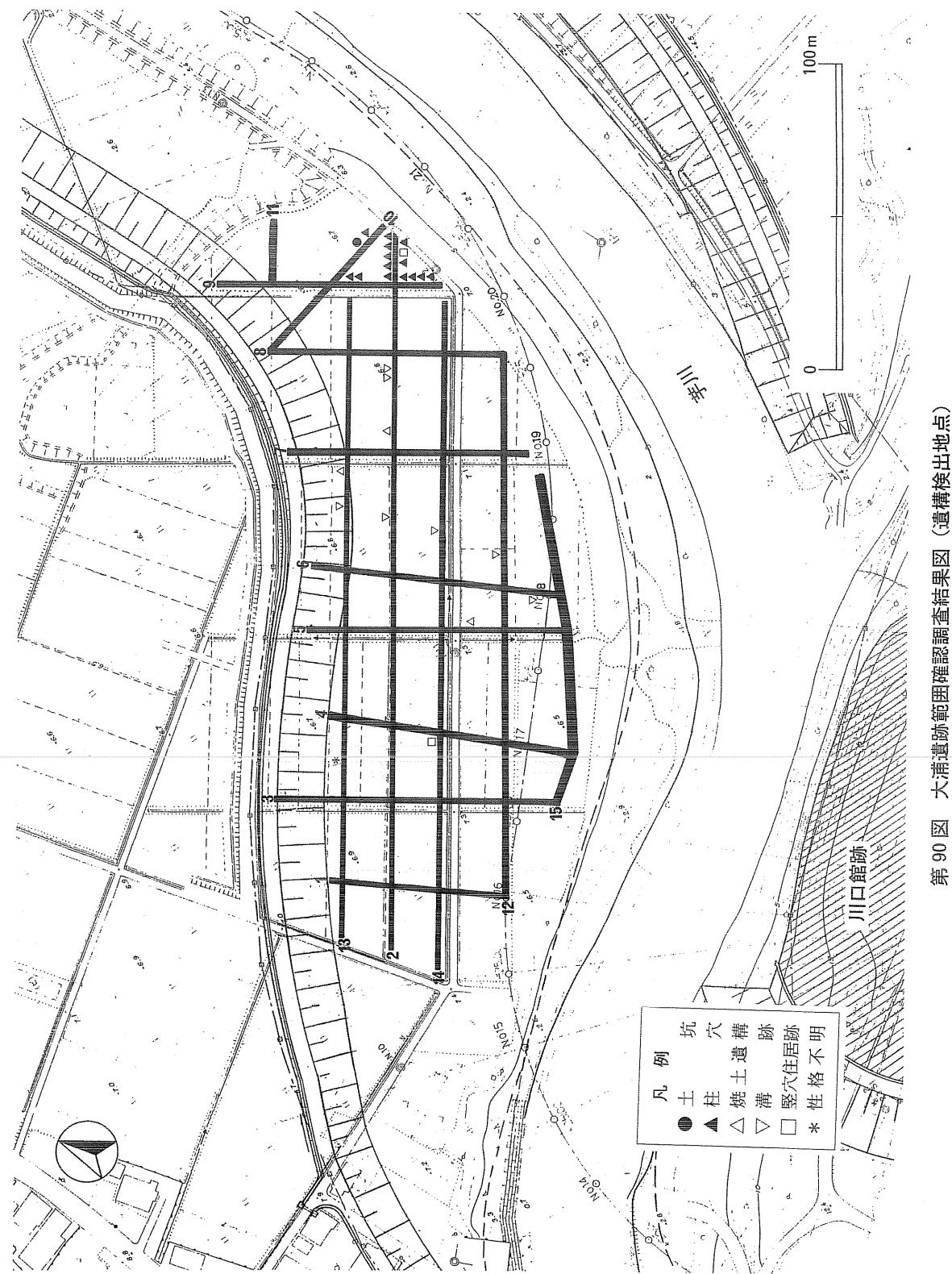
c 発掘調査時に予想される遺構・遺物

平安時代の竪穴住居跡、溝跡、土坑、掘立柱建物跡（または柱穴群）等が検出されるものと予想される。東端部では、柱穴、竪穴住居跡、土坑などの遺構が集中すると考えられる。中央部では、溝跡、竪穴住居跡などの検出が予想されるが、分布密度は稀薄であると推定される。

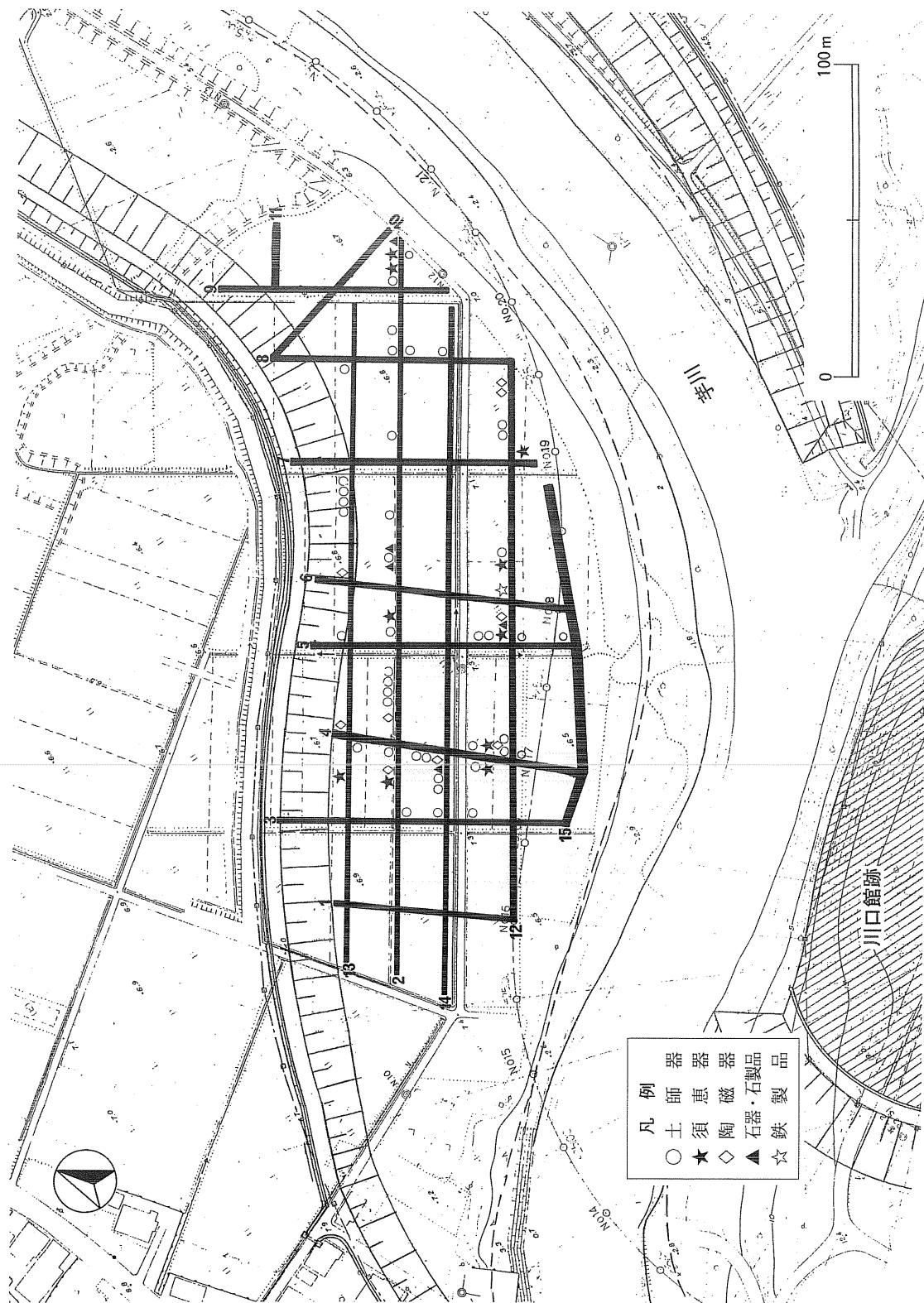
遺物は、土師器、須恵器、陶磁器、鉄製品、木製品が出土すると予想されるが、その量は少ないものと思われる。



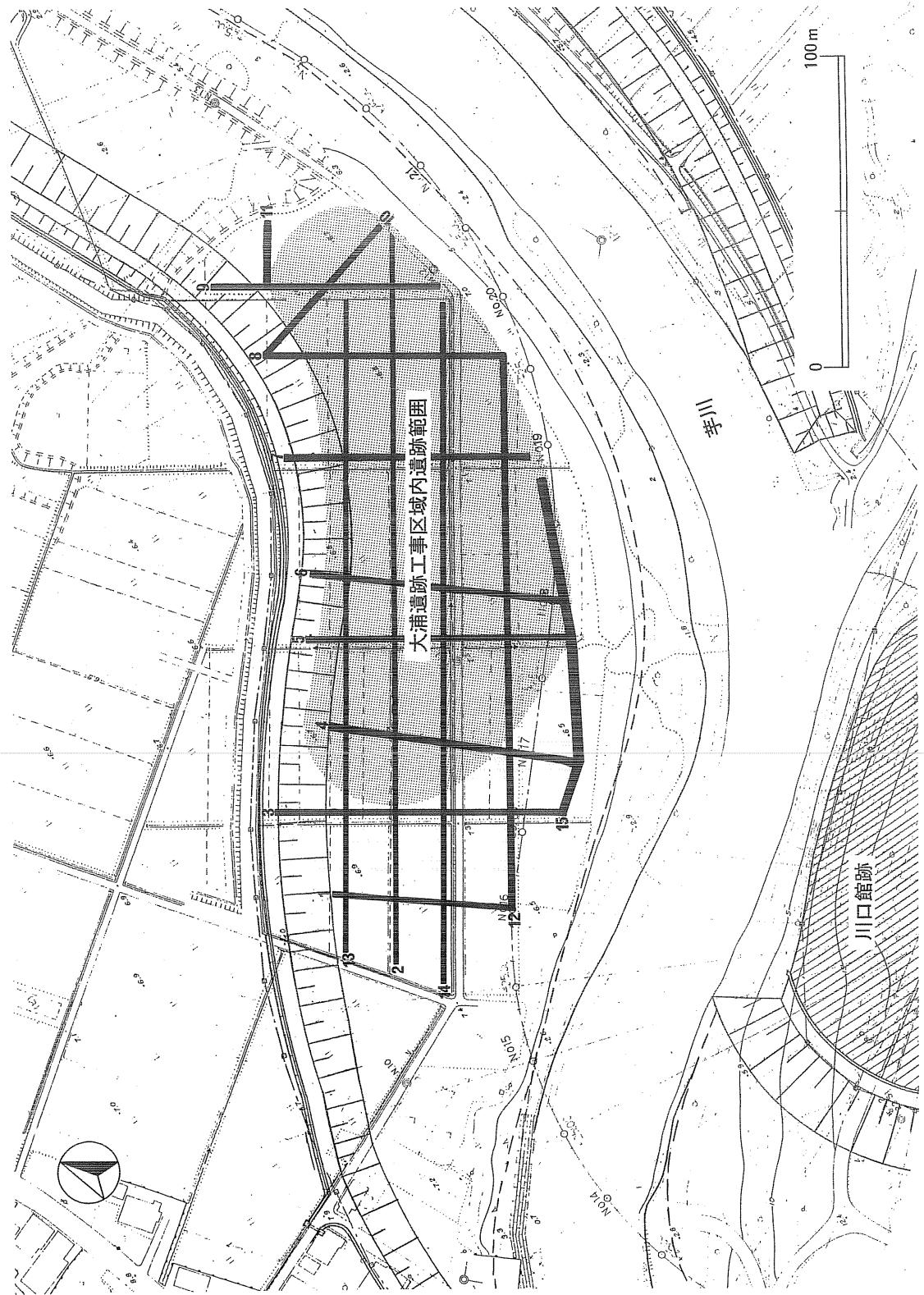
第89図 大浦遺跡位置図



第90図 大浦遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第91図 大浦遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）



第92図 大浦遺跡範囲図



大浦遺跡
遠景（東から）



大浦遺跡
柱穴検出状況
(南から)



大浦遺跡
土坑検出状況
(南から)